

# 霊の賜物の発見

## ◆霊の賜物に関する新約聖書の探究

- 第一部 もてなし、ローマ二二章
- 第二部 勧告、コリント第一・一二章
- 第三部 教え、コリント第一・一二章、エペソ四章
- 第四部 知識、殉教、見分ける力(洞察)、信仰
- 第五部 慈善、知恵、指導、牧会(羊を養う)
- 第六部 伝道、助け(奉仕)、使徒、寄付
- 第七部 行政管理、とりなし、外国伝道(宣教)、預言

著者、ロイ・C・ネイデン

(アンドリウス大学宗教教育部準教授)

発行所

世界総会チャーチ・ミニストリー部

翻訳・発行

セブンスデー・アドベンチスト教団

## パウロは賜物について語っている コリント人へ書き送っている

新約の各書は特定の必要に合わせて書かれました。コリント人への第一の手紙もその例外ではありません。

西暦五一年と五二年の第二次伝道旅行のとき、パウロはコリントで教会を起しました。その後の五年間、この教会は多くの困難を経験しました。例えば、自分たちをパウロ派とみなしたり、ペテロ派とみなしたり、アポロ派とみなしたりする分派活動がありました(ペテロ第一・一ノ二二)。ギリシヤ哲学は、十字架上のイエスの死に対する信仰という単純な福音と競い合いました(コリント第一・一ノ二二、一三三)。クリスチャンの中には、市場で売られている食べ物や、偶像に供えられていたものであることに混乱させられている人たちもいました(コリント第一・八ノ一)。聖餐式ははなはだしく誤用されていました(コリント第一・一ノ二〇―二二)。

より劇的な賜物の一つである異言が不適当に用いられ(コリント第一・一四章)、その結果、コリント人への第一の手紙には、霊の賜物について聖書の中で最も長い論議がなされています。これらの点はすべて正しく論じられる必要があります。さもなければ、ギリシャの教会は分裂し、無力になる危険がありました。

パウロは、第三次伝道旅行のあいだに、エペソで暮らしていたとき、これらの不幸な事態が進行している知らせを受け取りました。パウロにとってないがしろにできないエーゲ海の向こうの大切な教会は、大いに導きを必要としていたので、そこでパウロは、問題を正すために、力強く、しかも優しく手紙を書いたのです。

次にコリント第一・一二ノ八一―一四一、一四一―一八、二八―三二にある、賜物の問題についての短い引用句をあげます。これらの引用句を熟読してください。

八節「すなわち、ある人には御霊によって知恵の言葉が与えられ、ほかの人には、同じ御霊によって知識の言」、九節「またほかの人には、同じ御霊によって信仰、またほかの人には、一つの御霊によっていやしの賜物」、一〇節「またほかの人には力あるわざ、またほかの人には預言、

またほかの人には霊を見わけける力、またほかの人には種々の異言、またほかの人には異言を解く力が、与えられている」。一節「すべてこれらのものは、一つの同じ御霊の働きであって、御霊は思いのままに、それらを各自に分け与えられるのである」。

一四節「実際、からだは一つの肢体だけではなく、多くのものからできている」。一五節「もし足が、わたしは手ではないから、からだに属していないと言っても、それだからだに属さないわけではない」。一六節「また、もし耳が、わたしは目ではないから、からだに属していないと言っても、それで、からだに属さないわけではない」。一七節「もしからだ全体が目だとすれば、どこで聞くのか。もし、からだ全体が耳だとすれば、どこでかぐのか」。一八節「そこで神は御旨のままに、肢体をそれぞれ、からだに備えられたのである」。

二八節「そして、神は教会の中で、人々を立てて、第一に使徒、第二に預言者、第三に教師とし、次に力あるわざを行う者、次にいやしの賜物を持つ者、また補助者、管理者、種々の異言を語る者をおかれた」。二九、三〇節「みんなが使徒だろうか。みんなが預言者だろうか。みんなが教師だろうか。みんなが力あるわざを行う者だろうか。み

んないやしの賜物を持っているのだろうか。みんなが異言を語るのだろうか。みんなが異言を解くのだろうか。三一節「だが、あなたがたは、更に大なる賜物を得ようと熱心に努めなさい。そこで、わたしは最もすぐれた道をあなたがたに示そう」。

次にあげてある1から7までの賜物は、ローマ人への手紙の中に示されています。8から17までの賜物は、コリント人への第一の手紙の中に示されている追加の賜物です。

- |    |           |    |    |    |        |    |    |
|----|-----------|----|----|----|--------|----|----|
| 1  | 預言        | 2  | 奉仕 | 3  | 教え     | 4  | 勧め |
| 5  | 寄付        | 6  | 指導 | 7  | 慈善     | 8  | 知恵 |
| 9  | 知識        | 10 | 信仰 | 11 | いやし    | 12 | 奇跡 |
| 13 | 見分ける力(洞察) | 14 | 異言 | 15 | 異言を解く力 |    |    |
| 16 | 使徒の職務     | 17 | 管理 |    |        |    |    |

## デイスカッション

霊の賜物について教えられている新約聖書の三つの章には、からだगतとえとして用いられています。たとえが用いられるのは重要な真理を教えるためです。たとえの細目にこだわって、時々、著者が想像もしなかった、ばかげた結論が引き出されることがあります。このようなわけで私たちは、注意

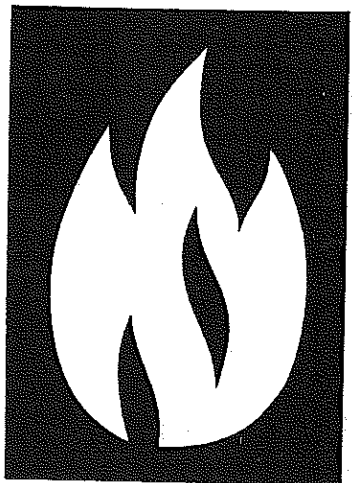
深く進む必要があるのです。

a 人は、片手や片足がなくても、満たされた人生を送ることができません。しかし、心臓がなければ、人は生きることができません。パウロは、生命にかかわるほど重要な賜物もあれば、あってもなくてもいい賜物もあるということを、我々に教えようとしているのでしょうか。もしそうであれば、何が生命にかかわるほど重要な賜物であり何がそうでないと、どのようにして知ることができるといえるのでしょうか。もしそうでなければ、なぜ「からだ」というたとえが用いられているのでしょうか。

b 使徒行伝は、広い領域にわたって、霊の賜物が人々によって働かされるときにもたらされる、大きな恵みを描いています。その同じ賜物が、のちに、コリントの教会で、混乱と無秩序をもたらしたのです。どのような状況のもとで、霊の賜物を用いることが、霊的健康にとって危険なものとなるのでしょうか？

c 人は、聖霊によって十分に奉仕に用いられるために、どんな代価を支払いますか。

d ローマ二ノ一、二の中のパウロの言葉を思い起こして、あなたは、賜物を受けると言えることが出来ますか。あなたの関係は何であると言えることが出来ますか。あなたが賜物を失うということはあり得るのでしょうか。もしあるならば、どのような状況のもとででしょうか。もしないとすれば、なぜでしょうか。



## 断片をつなぎ合わせる

これでほとんどの賜物が確認されたわけですが、私たちは、このように多種多様な賜物が、どうすれば教会や地域の生活に寄与することができるか、熟考する必要があります。「青年の基本的葛藤」の著者ビル・ゴサードは、おもしろい説明をしています。彼は、七つの異なる賜物を持つ七人の人々が、理想的な教会を計画するに当たって何と云うか、たずねています。

管理の賜物を持つ人は、すべてのことが「立派に整然と」なされるように、一貫した体制を強調したがるでしょう。

寄付の賜物を持つ人は、教会の聖職と外国の伝道のための気前のよい援助を確保したがるでしょう。

勧めの賜物を持つ人は、カウンセリングのプログラムや、個人的伝道を提案したがるでしょう。

教えの賜物を持つ人は、聖書教室の計画や組織に注意を集めたがるでしょう。

様の問題を、異なった賜物を持つ人々はどう処理するでしょうか？ 次のような応答が返ってくると思われれます。

管理の賜物を持つ人はたぶんこう言うでしょう。「ジョン、ちり取りとほうきを持って来て、片づけてさし上げててください。ジョン又、お客様に別のお皿を用意してさし上げてくださいませんか。エレン、ぬれた布を持って来て、お客様の服のしみをふき取ってくださいませ。」

慈悲の賜物を持つ人はたぶんこう言うでしょう。「気にしないで下さい。だれにでもあることですから。」

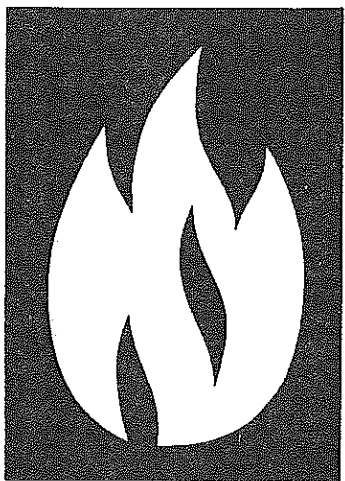
寄付の賜物を持つ人はたぶんこう言うでしょう。「私の分を取って下さい。まだ手をつけていませんから。それに、私は、実を言うとおなかがいっぱいなんですよ。」

勧めの賜物を持つ人はこう言うかもしれません。「いやあ、こういうことはいちばん行儀のいい家族に起こることですよ。」  
奉仕の賜物を持つ人はたぶん大声でこう言うでしょう。

「私に片づけさせて下さい。」

教えの賜物を持つ人は、こう言いたがりそうです。「『少しでもむだにならないように、パンくずのあまりを集めなさい』というイエス様のみことばを思い出しましたよ。むだになるものなどありません。」

行動を伴ったあらゆる賜物を持つ教会は、あたたかくて、



奉仕の賜物を持つ人は、植木の世話や、補修や、駐車や、食事の接待のような活動のことを第一に考えます。

預言の賜物を持つ人は、聖書に基づいた説教を望むでしょうし、死別や、ストレスや、難局に際して、牧師職のスタッフの個人的世話を必要とする人々に対する、適切な世話の保証を第一に考えるでしょう。

実際、理想的な教会は、神様が地上で教会にお与えになった全使命を達成するために、あらゆる賜物の集中を必要としているのです。

ゴサードは次に、それぞれの賜物をもつ人の傾向をうまく説明しようとして、その焦点を日々の活動に合わせることを提案しています。例えば、テーブルで食べ物をこぼしたお客

世話のいきとどく、養育的な家族です。そして、地域の必要を知り、それらを満たしてやる教会なのです。

## 勧告の賜物

「わたしたちは与えられた恵みによって、……勧めをする者であれば勧め、……」（ローマ二ノ六―八）。

### 1、勧告の原語の意味

「勧告」はギリシャ語のパラカレオから来ています。パラには、「そばに寄る」をはじめさまざまな意味があり、カレオは「呼ぶ」を意味します。動詞形は、「懇願する」に四三回、「慰める」に二三回、「勧め」に一九回、そして「願う」に八回訳されています。欽定訳聖書では、その語の名詞形が、「慰謝、慰め、勧め」と訳されています。ヨハネによる福音書の中では、それは「慰め主」と表現されて、聖霊をさしています。このようにさまざまな訳を参照して、この賜物の意味を的確につかむことができます。おそらく「激励」という語が、この賜物の意味に最も近いでしょう。

### 2、行為に表された勧告

十字架以後、ペンテコステほど神の力をはっきりと表明した出来事はありませんでした。教会の歴史の最初の七、八週間の出来事が、主の再臨に備える世界伝道による教会成長のひな型として残っています。一六の簡潔な聖句の中に、教会成長の準備段階が描写されています。その何週間かのあいだに、使徒たちはみな、互いの関係と、神との関係を正しくしました。そして、神が自分たちに奉仕のための力を与えて下さるのを待ったのです。聖霊が待っている使徒たちの上へ下って、彼らを朝早く主への奉仕のために送り出しました。6 異言の「霊的賜物」を持つスポークスマンのペテロは、一二―以上の言語グループ——ペンテコステの歴史的祝祭を祝うためにエルサレムに来ていた世界中のユダヤ人たち——に福音を伝達しました。

ペテロの人を動かさずにはおかない説教が最高潮に達したとき、人々は、「私たちはどうしたらいいのでしょうか」とたずねました。使徒は、悔い改めて、イエスの名によってバプテスマを受けなければならないと答えました。しかし、彼はそれだけにとどめませんでした。人々の質問に答えて、指導を続けたのです。労を惜しまず彼は一人一人の必要を満た

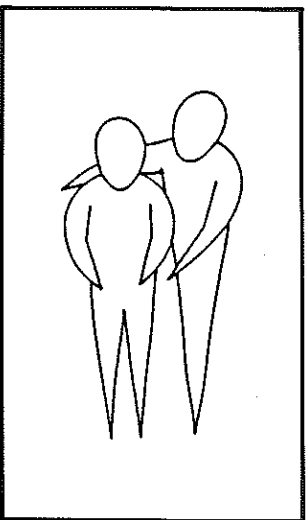
すために働きました。記録はこう述べています。「ペテロは、ほかになお多くの言葉であかしをなし、……勧めた」（使徒行伝二ノ四〇）。人々の中で立ち働いていた勧告の賜物を持つ使徒は、間もなく三千人もの人々が教会の仲間入りをするために押し寄せるのを見たのです。

### 3、勧告の賜物の五つの面

聖書は、次の a から d までには勧告に当たるギリシャ語の原語を用い、e ではその同義語を用いています。

a 勧告の賜物を持つ人が頼りにする情報源は、聖書と聖霊である（ローマ一五ノ四、使徒行伝九ノ三二）。

b 勧告の賜物を用いるとき希望と慰めが与えられる（ロ



十字架以後、ペンテコステほど神の力をはっきりと表明した出来事はありませんでした。教会の歴史の最初の七、八週間の出来事が、主の再臨に備える世界伝道による教会成長のひな型として残っています。一六の簡潔な聖句の中に、教会成長の準備段階が描写されています。その何週間かのあいだに、使徒たちはみな、互いの関係と、神との関係を正しくしました。そして、神が自分たちに奉仕のための力を与えて下さるのを待ったのです。聖霊が待っている使徒たちの上へ下って、彼らを朝早く主への奉仕のために送り出しました。6 異言の「霊的賜物」を持つスポークスマンのペテロは、一二―以上の言語グループ——ペンテコステの歴史的祝祭を祝うためにエルサレムに来ていた世界中のユダヤ人たち——に福音を伝達しました。

一マ一五ノ四、コリント第二・七ノ六、七）。

c 勧告の賜物は、優しい父親のように、忍耐をもって働かせなければならぬ（テサロニケ第一・二ノ一一、一二）。

d 勧告の賜物は、おくびょうな人も含めて、キリストのからだであるほかの人々を励ますために意図されている（コリント第二・七ノ六、七、テサロニケ第一・五ノ一四）。

e 勧告の中には、個人的体験から生じたものもある（ルカ二ノ三三）。

### 4、定義

勧告「慰めや、指示や、励ましをもたらし、主のみこころに従うように訴える霊的賜物。」

### 5、賜物の誤用

この賜物を持つ人は、勧めの働きをしすぎて、不健康な依存者を作り出す可能性があります。重荷を持ってあげたり、援助を与えてあげたりするよりも、「人々を正しくする」こ

とにより関心を持つことは、この賜物の誤用の一つです。

## 6、デイスカッション

a この賜物を働かせることによってあなたに個人的な恵みをもたらされたという体験を、あなたは話すことができますか？

b 勧告の賜物を持つ人にたずねるには、どのような種類の質問が適当でしょうか。心理学者や精神病医にたずねるには、どんな種類の質問が適切でしょうか。

c 専門的な訓練を受けたクリスチャン・カウンセラーがよい働きをした場合、勧告の賜物を用いた結果であると言えるでしょうか？これは一つの祝福でしょうか。

## 7、勧告の賜物の確認

次のいくつかの質問を考えて自分には勧告の賜物があるかないかを考えてください。

最近家族をなくした人を慰めないと気持ちがおちつきませんか、強硬な意見の相違があったときに、教会の委員会をうまく調停したことがありますか、反抗的になっている若いメ

ンバーと話し合う努力をしたことがありますか、かつてメンバーだった人を、教会へ戻るよう招く努力をしたことがありますか、落胆している人をさがし出して、その人たちをイエスにあって立たせることが気楽にできますか。

## 予習

ガイド第三部を学んで下さい。コリント人への第一の手紙一三章の荘厳な愛の章と、エペソ人への手紙に列挙されている賜物に目を通し、教えの賜物について考えて下さい。次にあげるのは、次回に考えるポイントです。

- ・ ある賜物が神の意志に従って用いられているということの根本的なテストとなるものは何ですか。
- ・ クリスチャンはいつ聖霊から賜物を受けますか。
- ・ クリスチャンがその賜物を用いるとき、どんな結末を期待することができますか。
- ・ 聖霊は、賜物を分け与える唯一の存在ですか。
- ・ 新約聖書の中にあげられている二〇余りの賜物の中に、他のものよりも優位に立つものがありますか。
- ・ 人は、自分が教えの賜物を持っているということを、どうすれば確信することができますか。